

令和元年度 第2回北空知地域入退院支援研修会開催結果・評価

項 目	内 容
1 日 時	令和元年11月18日(月) 18:15~19:45
2 内 容	<p>1 事例紹介「5年後の生活を想像して、本人・家族への支援を考える」 深川市地域包括支援センター 介護支援専門員 上林 早苗 氏</p> <p>2 事例検討 「5年後の生活を予測し、どのような課題があるかについて」 「課題を踏まえ、本人・家族に寄り添った継続支援について」</p>
3 出席者	看護職30名、介護支援専門員27名、MSW・SW・相談員6名、リハビリ職3名 保健師9名、薬剤師1名、歯科医1名、事務職2名、その他1名 参加申込者は96名だったが、欠席17名、当日受付1名、合計80名であった。
4 結 果	<p>1 事例紹介「5年後の生活を想像して、本人・家族への支援を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部配付資料あり。スライドで事例紹介を実施。 ・紹介後質疑の時間を設けるとともに、グループワーク時に巡回し質疑に応えた。 <p>2 事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・14G、1G5~6人で検討を実施。 ・テーマ2点 <ul style="list-style-type: none"> ① 「5年後の生活を予測し、どのような課題があるかについて」 → 5年後の生活を考え、課題を整理してみましょう。 ② 「課題を踏まえ、本人・家族に寄り添った継続支援について」 → 整理した課題からどのような支援が必要か考えてみましょう。 ・1回目同様の進行方法で実施。各グループにファシリテーターを配置。ファシリテーターは開始時刻30分前に集合、役割を進行担当から説明。GWは、自己紹介・アイスブレイク行い、書記と発表者の選出は各グループに任せた。全体共有においても、自由に発表できるように進化した。 <p>3 全体共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に発表できるように内容が重複しても構わないこととした。 ・司会進行により、5Gが発表した。 <p>8G: ①息子が仕事を継続できるのか。本人の病状悪化の可能性はある。家が古く住み続けることができるのか ②ネコのもらい手を探すサービスがあるとよい。方法としてネット、広報で。金銭管理への助言が必要。</p> <p>4G: ①本人が亡くなったら息子はまたひきこもってしまうのではないかと。本人、息子の病状の悪化。本人、脳梗塞の再発。息子は、失明し仕事ができなくなるなど。ネコが増えてエサ代で生活を圧迫する。 ②本人は施設入所することを想定し、民生委員等による訪問等で息子への見守り支援。そこで栄養指導を受ける等。ネコを里子に出す支援により、市営住宅入居の可能性も出てくる。</p> <p>11G: ①本人、認知症が進んでいる。心臓機能低下、ADLも低下。息子は、糖尿病が悪化すると仕事が継続困難。ネコにかまれると治癒遅く仕事困難になってしまう。これまでの食</p>

<p>4 結果</p>	<p>事管理が悪く、それが影響している。ネコが増えて近所迷惑となり、大家からも撤去を強く言われる。</p> <p>②本人、認知症が進んでいる。心臓機能低下、ADLも低下。息子は、糖尿病が悪化すると仕事が継続困難。ネコにかまれると治療遅く仕事困難になってしまう。これまでの食事管理が悪く、それが影響している。ネコが増えて近所迷惑となり、大家からも撤去を強く言われる。</p> <p>6G：①ネコが増えて大変。内服、金銭管理が困難。ゲームに課金もしているのではないかと。 ②民生委員とのつながりが継続しているとよい。薬剤師の指導もあるとよい。ネコも増やさないように。家問題対策として、北竜町へ移住。生活保護の相談も受けていく。</p> <p>12G：①ネコが増える。食事、金銭問題。家はつぶれてしまう。息子の仕事は継続できているか。本人は年金10万円あれば何とかなるが、困るのは息子。 ②動物愛護団体に相談しネコ去勢。困窮者が利用できるシェアハウスがあるとよい。発達障害、知的障害の相談を受け診断がつきそうであればすすめ、受けられるサービスの利用。不要な家具のあっせん、町内、地域で野菜づくり、食堂などお金を生む活動があるとよい。子どもにゲームを教えるなど能力の活用。</p> <p>4 アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載時間を研修時間内に設けた。アンケート回答者69名。回収率86.33%。 ・(1)職種 (2)経験年数 (3)研修内容評価 (4)入退院支援研修参加回数と自由記載3項目 (5)研修の成果 (6)今後の研修会への要望 (7)意見感想の欄を設けた <p>5 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携の心得をまとめた「よこすかエチケット集」の紹介
<p>5 評価 達成度 について</p> <p>○→達成・ 良かった</p> <p>△→ほぼ 達成・ まあまあ 良かった が課題あり</p> <p>×→達成 できてい ない・良く なかった</p>	<p>○ 地域の入退院支援の課題に即した企画だったか → ○</p> <p>企画 画</p> <p>本研修の事例検討を通じて、入退院支援のスキルアップや関係性作りにつながっている。またアンケートでは、入退院支援に直接的な内容を望む意見もあったが、地域課題に基づいた企画だったと評価する</p> <p>【目的】 北空知地域の地域医療関係者と地域支援関係者が連携して入退院支援を進めていく関係を築く</p> <p>【課題】</p> <p>① 対象者を理解し、ニーズを明確にすることで、本人に合った支援ができるが、本人の思いを確認せず、支援を展開していることが多い。</p> <p>② 切れ目のない支援を展開するために医療と介護のタイムリーな情報共有が必要であるが、その体制が整っていない。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 支援関係者が、本人や家族の思いに添った支援ができるようになる</p> <p>2. 入退院支援をしていく上で、医療関係者と地域支援関係者が、情報を共有し同じ目標で支援ができるようになる</p> <p>(令和元年度北空知地域入退院支援研修会企画案より)</p> <p><事例について> 社会問題となっている8050問題を考える事例。 脳梗塞後遺症のある母と糖尿病で仕事や精神面が不安定な息子の二人暮らし。今後の生活を想定した支援を多職種で検討した。</p>

<p>5 評価 達成度 について</p>	<p>企 画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回は終末期だったので重かったが、5年後を想像するというテーマが話しやすかったのか、これまでと異なり事例に対する細かい質疑がなかった。 ・医療や介護だけでなく、地域の方に目が向き、発想が広がって行った。 <p>・アンケート結果から、身近で多岐にわたる問題、家族を含め継続支援が必要、事例を通じて本人や家族の思いを知る、先を予測した支援、視野を広げる、多職種の力の大切さの学びが記載されていた。このような検討により、公的サービスのみではなく、地域づくりの視点をもつ。過去についてではなく、今後について検討できてよかった。今後も研修で8050問題、ひきこもり、独居や身寄りのない方の支援、通院や薬管理困難な方への支援など、身近な地域課題について取り上げてほしいという意見や、入退院支援、医療と介護従事者のギャップを埋める方策について検討の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8050問題や身寄りの居ないケースは多くなっており、病院や施設も含めて、地域で支援の仕組みを考える必要がある。 <p><事例検討のすすめ方と結果について></p> <p>(1) 課題整理では、①家 ②金銭面 ③息子の仕事 ④本人と息子の病気 ⑤飼い猫 (2) 継続支援では、①病状 ②食事 ③介護保険外のサービス ④地域の力 ⑤住居など テーマに沿って検討しやすくなるようキーワードを提示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループにファシリテーターを配置 ・グループでの記録は模造紙に自由記載とした。発表時貼らず、終了時回収。 ・全体発表は、司会と進行がGWの様子や記録の様子を見て指名した。発表した5Gでは、今までにない目新しい意見が出されていた。 ・既存情報にとらわれず、未来を柔軟に想定して各職種の視点から支援について検討できた。 ・進行役がグループワーク中も巡回することで、各グループへのサポートになった。 ・事例検討のキーワードの設定は適当であり、話しやすかった。 ・今までにない盛り上がりがあった。どのグループもみんな意見を言っていた。 ・ファシリテーターも慣れてきたのではないか。また、事例検討に対する参加者のレベルがあがってきたのではないか。 <p>・アンケート結果から 楽しい、話しやすい環境だった、意見交換が円滑に進んだという意見があった。</p> <p>○ 周知方法はどうか →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催通知文にて通知。参加対象となる職場等が決まっていることから、通知文による周知でよいと思う。 ・医療・介護等の関係事業所100カ所以上に案内しているが、大きな病院や施設は職員にまわっていないかもしれない。 ・参加人数の調整はしなかった。会場間違えたという方はいなかった。 ・アンケート結果から、参加メンバーが固定化してきたと意見あり。参加してほしい職種や地域への呼びかけをどのように行うか課題である。 ・今回初めて多くの欠席があった。特に当日連絡や受付時で同僚の欠席を連絡するところもあり、GWの再編成に苦慮した。申込みを忘れている人もいるが、次回案内には、欠席する場合はGW編成に支障をきたすので、事前に連絡するよう注意書きを入れてみる。
------------------------------	--

<p>5 評価 達成度 について</p>	<p>○ 会場の状況はどうだったか →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 80名参加。1回目は86名。 15G予定だったが、欠席あり14Gに当日再編成。 ・ 参加人数は減ったが、人数増やす場合は会場変更が必要になり得る。 ・ 会場は収容人数に限界（机を置く場合は6人×15Gが限界）はあるが、病院参加者を含め、集まりやすさから市立病院が一番適当である。 ・ 参加者より、入口側のグループからは、スライドが見えない。またアナウンスが聞こえずらいとの指摘あった。何らかの工夫を図る。 ・ アンケート結果より 空調が寒かった。人数が多くグループワーク中間こえにくいとの意見があった。
	<p>○ 小部会の打合せ・準備状況 →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回研修会の企画会議を4回実施（9/3、9/24、11/6、11/12） ・ 1回目は第1回研修会の開催準備スケジュールの確認と役割分担、2回目は開催要項、研修目的・目標の設定。事例提供者の選定、3回目は事例検討の進め方、提供事例の概要確認、4回目は最終確認として実施。 ・ 小部会の他に担当ごとにも集まっていた。効率的に進行し、目的を達成する研修会とするためには細かな打ち合わせも重要であり、適切な打ち合わせ回数であった。 <p>○ 小部会のメンバーそれぞれが役割を遂行できたか →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例提供者へのサポート、具体的な運営の企画・準備など小部会で役割を分担しながらすすめることができた。 ・ 今年度は、第1回と2回で役割分担もかえ全員で分担して企画運営ができた。 <p>○ ねらった参加者の参加、職種 → ほぼ○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加人数80名。医療と介護の連携のそれぞれ要となる職種が大半を占めている。 <ul style="list-style-type: none"> ① 看護職36. 23%、② ケアマネジャー31. 9%、③ 保健師15. 9%。 ・ 経験年数は、① 20年以上が44. 9%、② 5年目未満が21. 7%、③ 15年以上17. 4%で、5年以上15年未満が14. 5%と少ない。 ・ 1回目参加者が12人（17. 4%）増えたこと、初めて市民団体からの参加（1名）があったことは評価。 ・ 5年以上15年未満が少ないのは、職場のリーダーになる年齢層であることや、子育て中のためではないか。 ・ 以前参加があった病院や事業所の参加が見られなくなった。今回のテーマはヘルパーの参加があったらよかったが、ねらった職種を案内するのは難しい。工夫・検討がいる。
<p>結 果</p>	<p>○ 参加者の満足度 →○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果からは満足度が高かったと評価 <p>研修内容 ①よかった73. 9% ②まあまあよかった23. 22%</p> <p>③あまりよくなかった、未回答は各1名 ④よくなかったと回答者は0人。</p> <p>活発な意見交換ができた、発想幅が広がる、リラックスして参加できた、話しやすい環境だった、楽しかった、有意義な交流の場となった、継続開催してほしい、年2回は多い、メンバーが固定してきたとの意見あり。</p>

<p>5 評価 達成度 について</p>	<p>結 果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また今回のアンケートでは、研修会参加回数を記載 ①2回目：26.1% ②1回目：17.4% ③4回目15.9%の順となっている。6回目は10.1% リピーターがいることから、職場の勧めもあると思うが、また参加したいと思ってもらえるような研修会と評価したい。 <p>○ 5年後の生活を予測し、どのような課題があるかについて語れたか → ○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの記録や全体発表より キーワードをもとに、母と息子の健康、生活環境、金銭面（息子の就労も含め）などそれぞれの視点で考えられていた。 ・将来を想像することに戸惑う参加者もあったが、ファシリテーターの進行、あるいは多職種からのフォローで盛り上がっていた。 <p>○ 課題を踏まえ、本人・家族に寄り添った継続支援について語れたか → ○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、5年後本人達が亡くなるといった予測で終わらないように、また紙面上の情報だけにとらわれず想像を膨らませた検討になるよう、ファシリテーターに事前に説明した。 ・各グループの記録や全体発表より 猫の支援や民生委員とのつながり、息子への支援など多く語られていた。息子の結婚など明るい未来についても具体的に語られていた。
<p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院支援研修会の目的である地域関係者の関係性作りにつながっている。 ・ケア・カフェでは顔見知りを増やす、気軽に語り合える場となっているが、当研修会では、事例検討を通じて共に考え、行動していく力を築いていると考えられる。 ・また研修会を通じて研修会の目標に向かい、課題解決するスキルアップになっているのではないか。 ・開閉会挨拶で述べられる「チーム北空知」の一員として個々への動機付けになってほしい。 ・研修内容の評価は高く、継続を望む声も聞かれており、参加がない事業所や若い層への参加を促し、幅広い参加者が参加できるよう企画していく。 ・全体の流れがよく、スムーズな司会進行で時間通りに終了できた。 ・ファシリテーター、参加者のスキルも上がり、グループワークがスムーズに行えている。